

板絵着色雷神図（狩野洞月詮信筆）



〔指定年月日〕平成九年二月一〇日
〔種別〕有形民俗文化財（信仰）
〔名称〕板絵着色雷神図（狩野洞月詮信筆）
〔点数〕一面
〔所有者等〕春日神社
〔所在地等〕宮前三一―一二

板絵着色雷神図（狩野洞月詮信筆）

本絵馬は桐材庵型（横二一〇・〇cm 縦左右九六・〇cm 中央一〇〇・五cm）で、桐板を縦一五枚に割短し、隅金具、笹金物そして丸に井桁の飾金具を配した漆塗の額で装飾している。文久元年（一八六一）に旧大宮前新田名主井口氏によって奉納されたものである。

図柄は、画面左上に荒れ狂う雷神を描き、画面右の大きな松樹の下に建物を配している。建物の中に囲碁に興じていると思われる三名がそれぞれ、雷神を恐れ手を耳にあてている姿、唾然とする姿、太刀に手をかけ立ち向かおうとしている姿で描かれている。この図様は北野天神縁起から取材するもので、菅原道真の怨霊が雷神となつて、清涼殿を襲う場面である。

本図を「雷神図」と呼称したのは、この雷神が、菅原道真の怨霊というより、雨乞いしないしは厄除けの神として描かれた可能性もあると見られるからである。だが、その雷神の姿を北野天神縁起絵から取材するのは、筆者の狩野洞月詮信がそのような粉本を所有する狩野派に所属するためと云つてよい。

雷神図を描いた本絵馬は、幕末における狩野派・狩野洞月詮信の有年紀作品としてだけでなく、数少ない旧大宮前新田名主井口氏とこの地域の庶民信仰を示す資料として貴重である。

【文化財所在地】

